

『私たちが救われた理由』

'22/05/01

聖書箇所: エペソ人への手紙 2 章 1-10 節 (新約 p.374-)

もう、この教会の皆さんは、よくご存知だろうと思います。今、幾つかの教会では、こんな風に教える場合があります、「私たちは価値があるから救われた！」って…。だって、聖書のみことばはこう教えるでしょ？「神の目には、あなたは高価で尊い。…」って…。

命題: 神様は、どうして私たちが救ってくださったのでしょうか？

イースターなどもあって、ここ3週ほど小休止をいただいておりますが、今日からまた、「エペソ人への手紙」の学びを再開いたします。実は、今日学んでいくみことばは、ちょうど2年前に学んだみことばなのですが、今回は、エペソ書の学びの流れで、もう1度、学んでいきたいと思っております。今日は、エペソ 2:1-10 のみことばから、私たちが救われた理由について、皆さんと一緒に学んでいきたいと思っております。

そういったことを私たちが正しく理解することによって、願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、ますます、神様の恵みに感謝することができ、今後より一層、この神様に仕えていくことを期待いたします。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるエペソ 2:1 以降をお開きください。

I・私たちに、**救い**が必要であったから！(1-3 節)

まず最初に、今日のみことばが教えてくれていることは、私たちに“救い”が必要であった！ということですね。まずは、そのことをしっかりと理解することが必要です。…と言いますのは、このみことばが教えてくれている救いとは、私たちが受けても受けなくても良いようなものじゃないからです！救いとは、私たちにとって、絶対に必要なもの…、私たちが救われないと、大変なことになるのです！そういったことが、ここエペソ 2:1-3 では教えられてあります。まずは、エペソ 2:1-3 までをお読みいたします。

- 1 あなたがたは自分の罪過と罪の中に死んでいた者であって、
- 2 そのころは、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。
- 3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままに生き、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

① 私たちは、かつて、自分の罪の中に死んでいた…。

まず、ここでパウロは、『**罪過と罪**…』という言葉を使っています。ここで、『**罪過**』と訳されている言葉(παράπτωμα)は、「踏み外して落ちること、違反、墮落、(罪過、)背教」というように訳される言葉で、どちらかと言うと、意識的に犯す罪や、行動となって表に現われ出た罪のことを表わし、もう1つの『**罪**』と訳された言葉(ἀμαρτία)の方は、皆さんがよくご存知の「ハマルティア」というギリシヤ語で、「**的を外す**…」といったような間違いや、そういった間違った生き方の故に犯してしまったような内面的な罪や悪を指していると思われまます。

そうして、その後には続きますのは、私たちが、そういった『**罪過と罪の中に死んでいた者であって…**』という言葉です。この『**死んでいた**…』という言葉は、私たちが、「**肉体のいのちを持っていなかった(とか)、息をしていなかった**…」というような意味ではありません。例えば、この言葉は、ルカ 15 章に書かれてある、有名な「放蕩息子の例え」と呼ばれる箇所にも使われてあるのですが、そこでは、真の神のことを表わしている父親のことを敬いもせず…、勝手気ままに、自分の家から出て行ったわがままな弟息子のことが、『**死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだ**…』(ルカ 15:24)という風に表現されてあります。

つまり、今日のみことばの 1 節でパウロが言わんとしていることは、「**私たちは皆、かつて、自分自身が犯した数々の罪の故に、全く“無益な者”に成り下がっていた！かつては、『死んでいた』も同然であった！**」ということなのです。…と言いますのも、私たち人間は皆、あの放蕩息子と同じように、本当の造り主である真の神様から離れて、その存在価値を失っていたからです。

イザヤ 43:7 では、こう教えられてあります。『**わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。**』って…。⇒ 私たちの造り主なる神様は、御自分の栄光のために…、その素晴らしさを現わすために、私や皆さんのことを造られたのです！でも、どうか皆さん、考えてみてください！果たして、私たちは、完全に聖く正しい神様の素晴らしさや栄光を現わしているでしょうか？⇒ 聖書のみことばは、それを、「**できていない！**」と教えています。だって、先程言いましたように、私たちは、神様のみことばに反して、たくさんの罪やみにくい過ちなどに“**まみれて**”しまっ、その存在意義を失くしてしまっているからです。

② 私たちは、かつて、悪魔に従って生きていた…。

それだけではありません！今日のみことばは、私たちが、かつては悪魔に従っていたということを教えます。ここ 2 節の、『**空中の権威を持つ支配者**』というのがそれです。確かに、この世の中と言うか…、世界の全てのもを造られた御方は、真の造り主なる神様です。しかし、それと同時に、この聖書が教えてくれていることは、今現在、この世の中は、悪魔に従ってしまっている！悪魔に支配されている！ということです。

…ですから、例えば、その昔、イエス様が荒野で悪魔からの誘惑に会われた時も、悪魔は、イエス様のことを、『**非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、…もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。**』というようなことを言ったということが、**マタイ 4:8-9** に記されてあります。また、それだけではありません。十字架にかかれる前夜、イエス様は弟子たちに、こんなことをおっしゃられました。**ヨハネ 14:30**、『**わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。**…』⇒ このように、この世は一時的に、悪魔の支配下にあります。しかし、それと同時に、聖書のみことばが教えてくれているのは、そのような悪魔の支配は決して完全なものではありません。悪魔の支配というものは一時的で…、しかも、神様の許しの範囲内でしか起こりえないということが、旧約聖書のヨブ記などから分かります。

この聖書が教えてくれている悪魔は、非常に狡猾で、誰よりも賢い存在です。この悪魔は、多くの人間たちを惑わして、そういった者たちを利用して、最後には、1 人でも多くの者たちを、裁きの場所である「**地獄**」へと引きずり込もうとしているのです。

残念なことに、私たち人間はすべて…、かつては、悪魔が作り出した『**この世の流れ**』に従ってしまっ…。しかし、そのような生き方は、例え、私や皆さんが意識していなかったとしても、結果として、真の神ではなく、悪魔に従っていたのだと、みことばは教えます。だって、皆さん。この世の流れというものを考えてみてください。進化論に LGBT、結婚前の性交渉など…、この世はますます造り主であられる神様から離れて…、聖書が教える価値観から離れていく一方じゃないですか！

③ 私たちは、かつて、生まれながらに、神の御怒りを受けるべき存在であった…。

私たち人間は皆、造り主なる神様によって造られ、また、生かされていながら…、その神様に逆らい、実は、悪魔に従って生きておりました。確かに、そのことを今まで強く実感してこられた方はあまりいらっしゃらないと思います。しかし、実は、それこそが真の神様からのメッセージであり…、それが現実なのです。また、今日のみことばは、私たちに、非常に大切なことを教えてくれています。ここ 3 節に、『**生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。**』と書かれてありますように、私たちは本来、「**神の怒りを受けて当然**」だったのです！…まずは、そういったことを、しっかりと覚えておくことが重要です。

それと、このみことばが『生まれながら…』と教えてくれているように、私たち人間は、自分自身の数々の未熟さの故や社会の悪に染まってきたから、罪人となってしまったのではなく、罪を持って生まれてきた…、つまり、“生まれながらの罪人”である！という現実です。赤ちゃんや幼い子どもたちがわがママを言い…、悪いことをしてしまうのは、必ずしも、親の責任とは言えません。罪を持って生まれてきたが故なのです。いえ、子どもたちだけではありません。私たち大人だって、その罪の性質を正しく理解して…、その罪に対して勝利するために救われなければ…、その罪と運命を共にする他無いのです…。

残念ながら、この地上の誰一人、罪を持って生まれてこない人間はおりません！救いが必要でない者もおりません！ですから、私たちが救ってくださるお方は、私たちとは全く違った方法で生まれてくる者でなくてはなりません。そのことのために、イエス様は、はるか何百年も前から預言されて…、そして、今から約2000年前に処女マリヤから生まれてこられたのです。イエス・キリストだけが、私や皆さんのことを罪から救ってくださる唯一の救い主なのです！

II・神様の、偉大なる御性質のゆえに！（4-5節）

その次に、私たちが見ていきたいことは、今日のみことばの4-5節に記されてあります、真の神様の偉大なる“御性質”であります。私たちは、この神様の偉大な“御性質”のゆえに救われたのです。それが、今日のメッセージの2番目のポイントです。そのことを確認していくために、どうぞ、今日のみことばの内、エペソ2:4-5をご覧ください。

- 4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、
- 5 罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——

①神の あわれみ による(4節)。

今お読みしました4-5節では、真の神様が持つておられる3つの御性質について説明されてあります。まず最初に教えられてありましたのは、神様とは、『あわれみ豊か』であられる！ということです。『あわれみ』とは何でしょうか？⇒辞書を見てみると、「不憫に思うこと。慈悲。同情。」とありました。神様が、神様の御怒りを受けて当然の、私たち人間のことを可哀想に思ってくださいましたのです！聖書が教えてくれているところの、真の神様は、そのような『あわれみ』に満ちておられる御方です。だから、そのような神様から私たちに、救いの手が差し伸べられたのです。

②神の、大きな愛 による(4節)。

次に教えられてありますのは、神様の愛です。しかも、ここ4節では、『私たちが愛してくださったその大きな愛の“ゆえに”…』とあることから分かりますように、ここでは、皆さんもよくご存知の…、神様の特別な愛を表わす、「アガペー」(ἀγάπη)という言葉の、名詞形と動詞形が使われていて、そのことが非常に強調されてあることが分かります。この、「アガペー」(ἀγάπη)という言葉が表わしてくれている種類の愛とは、神様が私たち人間を愛してくれているような、無条件かつ、自己犠牲的な愛のことを言います。

しかし最近では、多くの教会で、この神様の愛を強調し過ぎる傾向にあります。ここで、今日のメッセージの冒頭で話したことですが、「あなたは神の目から見た時、まるで宝石のように高価で尊いのです！何と、神様は、イエス・キリストのいのちと同等の価値を、あなたに見出してくださったのです！」というようなことが、ささやかれているような場合があります。実は、このような説明をした伝道トラクトがありました。ちょっと、その抜粋を紹介させていただきます。

<…たとえあなたが有名でなくても、高い地位に就いていなくても、強くなくても、神はあなたを高価で尊い存在だと認めて、愛しておられるのです。…そしてそれを表すために、イエス・キリストをくださったのです。…(それが)私たちが愛するために神が支払った代価＝あなたの本当の価値なのです。キリスト教会に掲げられている十字架は、あなたの価値を表しています。神から離れ、自分勝手な生き方はあなたの本当の価値を見失わせましたのです。…神はイエス・キリストの十字架をあなたと同じ価値と認めてくださったのです。…あなたが、自分の本当の価値を知ったら、きっとあなたの人生は変わるでしょう。>…と、このように続いています。

皆さん、今のコメントをお聞きになって、どのようにお感じになりますか？⇒明らかに、今先程見てきた聖書の教え…、聖い神様の前に、罪ある私たち人間がどのような存在であるか？という教えとは、少し違った印象のことが語られてあるように思われませんか？

実は、先程のトラクトの場合もそうなのですが、ほとんど、こういったような…、「あなたには価値があるのです！」というメッセージの場合に引用されるみことばがあります。それは、皆さんもお察しの通り、イザヤ43:4のみことばです。どうぞ、皆さん。できましたら、イザヤ43:4をご覧ください。そこでは、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。…』という、神様のお言葉が記されてあります。では、本当に、このみことばから、「神様は、イエス様のいのちと同じような価値を、私やあなたに見出してくださったのだ！」というようなことが言われているのでしょうか？

どうか、皆さん。このみことばが語られるまでの文脈を見るために、イザヤ43:1-4までをご覧ください。『1だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形造った方、【主】はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。2あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。3わたしが、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしは、エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。4わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』

⇒ここで、何が教えられてありました？1節に、『…ヤコブよ…イスラエルよ…』とあることから、明らかに、この言葉は、イスラエルの民(ユダヤ人)に対するメッセージであることは分かります。だから、1節後半から、こうあるのです。『1…わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。2あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡る時も、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。』⇒これは、神がユダヤ人たちになされた、「困難の時にも、神と共に居てくださる」という約束の実践です。実際、これ以前に、ユダヤ人たちはエジプトの奴隷であった状態から解放され…、モーセたちは紅海を渡り…、ヨシュアたちは『主の箱』をかついでヨルダン川を渡ることができました。そして、この時代よりも後の話ですが(イザヤはBC740-690、ダニエルはBC606-530)、ダニエル記3章には、『シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ』が『火の燃える炉』の中で助けられたという出来事がありました。

そして、その後、3節で教えられているのは、神様こそが、イスラエルの『神』であり、『主』であり、また、『救い主』であられるという話です。つまり、イスラエルの民は、この神様によって、「贖われた」のです(イザヤ43:1)。だから、神は、エジプトよりもイスラエルを優先してくださったのです！その後に書かれてある、『クシュとセバ』というのは、『エチオピア』のことで、少し後の、イザヤ45:14に、こうあります。『【主】はこう仰せられる。「エジプトの産物と、クシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。…』⇒つまり、神様の御導きの内に、イスラエルが回復され…、彼らは、他の国々よりも優先されたのです。

そうして、4節の、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。…』という言葉です。実は、多くの教会では、このみことばを引用する時、ほとんどの場合、この後半部分を紹介しません。…と言いますのは、後半部分を紹介すると、彼らの語るメッセージと調和しないからです。都合が悪いのです！その後半部分には、こう続きます、『…だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』⇒ここで言われている、『あなた』とは誰を指すのでしょうか？⇒明らかに、イスラエルの民です！ですから、『人をあなたの代わりにし…』と言うのは、「エジプトやエチオピアをイスラエルの代わりにした！」と言うことで、『国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』とは、そういった国々の民とイスラエルの民のことなのです。

ですから、ここで、みことばが教えてくれている、『わたしの目には、あなたは高価で尊い。』とは、明らかに、旧約時代のイスラエルに対して言われた言葉で…、今も、神様はイスラエルという国を特別に導いておられるということが分かります。また、『あなたは高価で尊い。』という言葉も、エジプトやエチオピアと比べた上で、イスラエルに対して向けられた言葉であって、決して、どのようなものよりも…、例え、イエス様のいのちよりも…、私やあなたの方が尊いなんていうことを、この聖書箇所は教えようとはしていないというのは明白です！

ここから、自然と導き出される適用は、神様は、御自分が贖いになられたものを、より…、特別に扱ってください、価値を与えてくださるということです。価値があるから救われたのではありません。神様によって救われたから、価値あるものとなったのです！イエス様よりも…、イエス様のいのちよりも、皆さんや私の方が、価値があるなんていう話では全然ありません！私も…、そして、皆さんも、神様によって救われたことによって…、かつては、『自分の罪と罪過の中に死んでいた者…』(エペソ 2:1)であったのが、初めて、「生きた者」となったわけで…、そこで、ようやく、神様の前に用いていただける者とされたのです！どうぞ、そういったことを理解してほしいと思います。

もう1ヵ所、「あなたには価値がある！だから、神は、あなたに救いを用意されたのです！」というような教えをする時に、引用される箇所があります。それは、ヨハネ 3:16 です。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』⇒ここでも、『…そのひとり子をお与えになったほどに…』と書かれてあるじゃないですか！と、ある人たちは言います。「つまり、それほどの価値が私たちにあるからでしょ！」というわけです。しかし、よく見てください。ここでは、神様の愛を説明する言葉として…、神様の愛の大きさを説明する言葉として、『…そのひとり子をお与えになったほどに…』とあるのです！決して、『世』⇒つまり、私や皆さんの価値のことについて話されているのではありません。

ですから、皆さん。ヨハネ 15:13 になんと書かれてあるか、ご存知ですよ。『人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』とあるじゃないですか！文字通り、イエス様は、私たちのためにいのちを捨ててくださいました…。でも、それは、私やあなたに、それほどの、大きな価値があったからですか？あるいは、神様の愛がそれほど大きかったからでしょうか？⇒そう！神様の愛が、それほどまでに大きかったからです！

ぜひ、皆さん。もう1度、今日のみことばに戻ってください。ここでも、エペソ 2:4、『私たちを愛してください。その大きな愛のゆえに…』とありますよね！先程の、ヨハネ 3:16 にあった、イエス様のいのちを『お与えになったほどに…』とは、私たちの価値を表すための言葉ではなく、神様の愛の大きさを表すための言葉なのです！そのように理解しないと、次の聖書の教えと、大きく矛盾することになってしまいます…。

③これこそが、神の 恵み である(5節)。

今日のみことばの、エペソ 2:5 後半に何とあります？⇒『…——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——』…このように、聖書は、私たちが救われたのは、ただ、神の恵みによると教えます。そうです！もし、私や皆さんのいのちに…、あるいは、救いに、イエス様のいのちと同等の価値があるなら、その私たちのいのちを救うために、イエス様がいのちを犠牲にされても、それは『恵みによる…』とは言えないのではないですか！？

実は、私は、これまでに何回か、このようなメッセージを聞く機会がありました…。それが、「あなたには価値があるのです！世界中で、あなたのような存在は、あなた1人しかいない！あなたは、神の前に高価で尊いとされているのです。」…というような趣旨のメッセージでした。その話がされる場合、時々、このような例えを使って、説明されることがあります。

ここに、折り返しのない…、新札の1万円札を用意します。そして、その後、きれいな1万円札をクシャクシャに折ってしまいます。でも、このお金の価値が1万円であるという事実は変わりません。…それと同じように、私たちも、罪を犯したり、病気があったり、あるいは、悩みがあったり…、いろんな問題があったりして、何か人と比べて劣っているように思ったりします。しかし、神の前には、あなたが、どんな状態であっても、「あなたには変わらない価値がある！」とされ、神様から愛されているんですよ、というような感じで、メッセージされるのです…。

でも、皆さん、考えてみてください。…果たして、今日のみことばが教えてくれていることは、私たちが、自分の罪や罪過のゆえに死んでしまって…、「本来の価値を失ってしまっていた！」ということだったのではないのでしょうか？だから、神様は、私たちに対して怒っておられる…、つまり、神の怒りこそが、私たちに相応しかったわけでしょ？…果たして、「私たちが罪によっても価値を失っていないのだ！」という聖書理解は、本当に正しいのでしょうか？

また、もう1つ…。もしも…ですよ、もしも、神様がそれに相応しい価値あるものを、それと同等のものとの交換したのだら…、神様の御業って素晴らしいでしょうか？もしも、私たちに救われるだけの価値があって、神様がそのために、イエス様を十字架にかけられたのだとしたら、果たして、それを“神の恵み”と言い得るでしょうか？もしも…、神様が、何の犠牲も払われなかったのだら…(＝対等のものとの交換した、というのはそういうことですよ？)、そこに神様の栄光が現わされているのでしょうか？⇒違いますよね！本来、価値の無いものを大きな犠牲を払って救い出してくださいましたから…、神様の恵みや愛は素晴らしいのです！永遠の裁きに落ちて当然の私や皆さんが、神様の大きな犠牲によって救われたから、そこに感謝があるわけなのです！違います？

だって、『恵み』とは、神様からのプレゼントなわけでしょ！エペソ 2:8 に、『あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。』とある通りです。ここで、みことばが、『自分自身から出たことではなく…』と教えてくれているように、私や皆さんが救われたのは、私たちの功績や当然の報酬などではなく、一方的な、神様からの贈り物の故なのです！

皆さん、気付いてくださいました？今、私たちが見えてきました2番目のポイントである、3つの理由は、すべて神様の側の理由でありましたでしょ。つまり、①神様が憐れみ深かったから、私たちが救われたのです。②神様が、皆さんのことを大きな愛でもって愛してくださいましたから、皆さんは救われたのです。③神様が、あなたに恵みを与えてくださるから、あなたは救われることができるのです！これらすべては、実は、神様の側の理由です！私や皆さんの側には、何一つ、救われるべき理由など無かったのです！

Ⅲ・あなたのことを **用いよう** としてくださっているから！(6-10 節)

最後、今日のみことばの 6-10 節のみことばから確認をしていきたいことは、**神は、あなたのことを、“用いよう”としてくださっている**！ということです。どうぞ、エペソ 2:6-10 までをご覧ください。

- 6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。
- 7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜う慈愛によって明らかにお示しになるためでした。
- 8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。
- 9 行いによるものではありません。だれも誇るものがないためです。
- 10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

ここ 6 節のみことばは、神様が私たちに与えてくださった救いの目的について説明してくれています。『キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。』って…。『ともによみがえらせ…』とあるのは、今日学んだように、かつての私たちが、『**自分の罪過と罪との中に死んでいた者…**』(エペソ 2:1)であったからです。ローマ書 6 章で教えられているように、救われたクリスチャンたちは、『**キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、…キリストとともに葬られ…いのちのちにあって新しい歩みをする…**』(ローマ 6:3-4)ことができるのです。今日のみことばの 6 節では、『**ともに天の所にすわらせてくださいました。**』と書かれてあって、さも、私たちも、もう既に、天に行ったかのような表現がされているのは、そのことが間違いなく実現するからです。続く 7-8 節では、『**恵み**』ということが強調されています。

私たちのなすべきこととは何でしょうか？ 7 節のみことばを使って説明をいたしますと、それは、神の恵みを明らかにすることです！神様が、如何に、恵みに富んだ御方であられるかということ、私たち救われた者たちが明らかにしていくのです！「こんな罪人の私でも、神は救ってくださった！」って…。

私や皆さんが、どれほど素晴らしい人間で…、あるいは、価値があるか、なんて、そんなことはどうでも良いし…、本当は、価値なんて無いのです！だから、この 9 節には、『**行ないによるではありません。だれも誇るものがないためです。**』と書かれてありますでしょ？でも、ある方たちは、こう信じます、「神様は、こんな私の価値を認めてくださった。あなたは高価で尊い！」って…。神様！ありがとうございます！私のことを特別な、唯一無二の存在として、価値ある存在として造ってくださって…」でも、これって、自分自身のことを誇ってしまいませんか？

それと、天の神様は、私たち罪人のことを…、本来、御怒りを受けるべき人間をむやみに赦したのでは、神様は聖く正しい…、義なる御方ではなくなくなってしまいます。だから、神は、イエス様をこの地上へと送り、私たちの罪の身代わりとしてくださったのです！

しかも、それだけではありません。10 節に、『私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』とありますように、何と、神は、私たちを新しく造り変えてくださいました…。かつては、『**罪の奴隷**』(ヨハネ 8:34;ローマ 6:6,16-17,20)で、悪魔の作った潮の流れに巻き込まれて、罪しか行なうことができなかつた私や皆さんを…、神様の喜んでくださる、『**良い行い**』をするために…、いえ、『**私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださった…**』とみことばは教えます。

<励ましの言葉>

いかがでしょう、皆さん？今日のメッセージは、ひょっとすると、皆さんが持っておられたプライドを傷つけるようなものであつたかも知れません…。「自分には価値がある！だから、私は神様から愛された！神様だけは、私のことを価値ある者とみてくださっている！」なんて思っていたのに…。でも、あなたにとって、より大切なのは、自分が価値あるものと認められることですか？それとも、神様のみこころを正しく、知ることですか？どちらでしょう？…どうか、皆さん。私たちの願いや希望を、聖書の解釈に読み込むのではなく…、聖書のみことばが純粋に何と教えてくれているか？そこに注目する者であってください！…なぜなら、そこにこそ、私たちの本当の祝福や喜び、感謝があるからです。

最後に、もう1ヶ所だけ紹介させてください。…私たちの救いについて、1 コリント 1 章のみことばは、何と教えてくれているでしょう？1 コリント 1:26-31、『**26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらん下さい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。31 まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。』**

⇒**ここのみことばもまた、同じようなことを教えてくれています。「私たちに価値があるから救われた！」**ではありません。…私たちが、自分の価値を誇るようなことを、天の神様は望んではおられません！もしも、私たちが誇るとするなら、誇るべきは主です！天の神様です！そうじゃありません？…私たちは、自分自身の栄光を現わすために造られたのでしょうか？それとも、神様の栄光を…、神様の素晴らしさを現わすために造られたのでしょうか？どっちでしょう？

どうぞ、神様からの恵みを感謝しつつ…、与えられた毎日を…、如何にして、神様にお捧げできるか、そのことを考えて、毎日を歩んでいっていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。